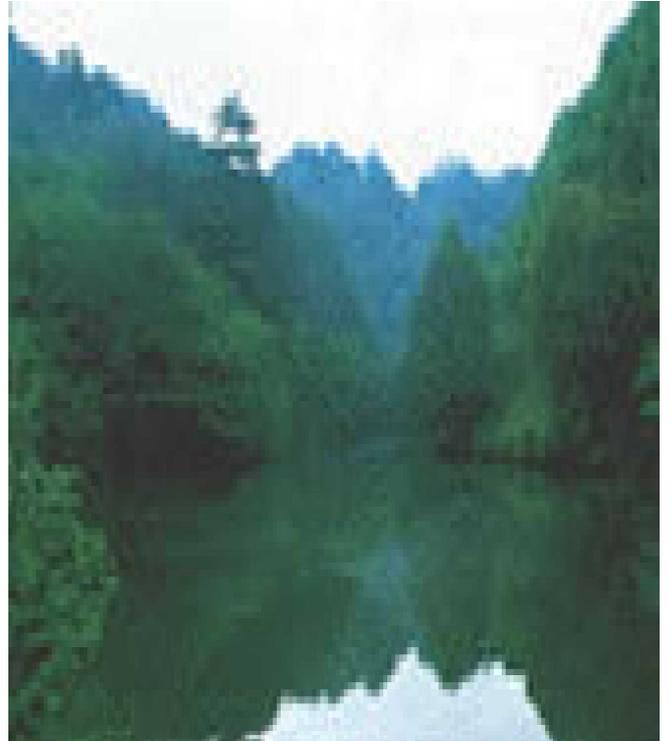


石尊宮（せきそんぐう） 勝負沼（しょうぶぬま）



せきそん せきそんぐう しょうぶぬま
石尊コースの石尊宮と勝負沼



とちゆつ じゆついちめんかんのん
※途中に十一面観音 があります。

せきそんぐう せきぐう けいだいまつしや じんじや かんり そく けいだい じんじや
石尊宮(石宮)は、境内末社(神社の管理に属し、その境内または神社
ふ きん けいがい ちい じんじや たきよう えきびよう ふせ
附近の境外にある小さな神社)のことで、他郷からくる疫病を防い
でもらおうとして建てられたともいわれています。

しょうぶぬま せきそんぐう みち いま せきそん
勝負沼から石尊宮への道は、今はハイキングコース(石尊コース)に
なっていますが、むかし やぶづか ゆ いり うばさわとうげ はちおうじとうげ ちやうすやま
向かう十字路)を経て桐生方面へ向かう峠道だったようです。

せきそんぐう みぎ かんせい ねん しちがつきちじつ ひだり がんしゆ ぜんきゆう
石尊宮には(右)寛政8年(1796年)七月吉日、(左)願主 善休と
いう文字が刻まれています。

しょうぶぬま につたぐん ほうじようぐん ち せんか まじ
勝負沼は、新田軍と北条軍がこの地で戦火を交えたところから、
しょうぶぬま な う つた
勝負沼の名が生まれたと伝えられています。